

# 地域社会学会会報

No.234 2023.6.27

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies  
〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部  
松宮朝研究室内

TEL 0561-76-8706(直) FAX 0561-64-1107 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728  
E-mail [jarcs.office@gmail.com](mailto:jarcs.office@gmail.com) URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

## ◆…………… 〈 会報 234 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 『地域社会学会年報』第 37 集の自由投稿論文等を募集します。詳細は 5 ページをご覧ください。
- 2) 2023 年度地域社会学会賞の推薦が始まります。詳細は 6 ページをご覧ください。
- 3) **2023 年度会費納入をお願いします。2023 年度より SMOOSY によるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認をお願いします。**

## 目 次

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 地域社会学会賞選考委員会からの報告
5. 社会学系コンソーシアム担当からの報告
6. 50 周年事業委員会からの報告
7. 地域社会学会第 48 回大会会計報告
8. 地域社会学会 2022 年度決算報告ならびに 2023 年度予算
9. 事務局からの報告
10. 事務局からのお知らせとお願い
11. 会員異動
12. 会員の研究成果情報
13. 理事会のご案内

### 2023 年度 第 1 回研究例会のご案内

日時 2023 年 7 月 15 日 (土) 13:30~16:30

会場 東洋大学白山キャンパス 6301 教室 (6 号館 3 階) +Zoom でのハイブリッド方式  
※アクセス方法等は、開催 2 日前をめぐりに、会員メーリングリストで配信します。

#### 【報告】

田中 里美 (都留文科大学)

地域社会学会第 48 回大会シンポジウムをふりかえって

#### 【地域社会学会 50 周年事業「地域社会学を振り返る」(1)】

吉野英岐 (岩手県立大学)

50 周年事業「地域社会学を振り返る」を始めるにあたって

※16:40~17:40 50 周年記念事業「若手会員の地域調査・研究ワークショップ」(会報 7 頁)

7月15日(土)開催の第1回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

## 1.会場にお越しのみなさま

会場：東洋大学白山キャンパス 6号館

教室：6301 教室（6号館3階）

★来場の際には入構証が必要になります。

7月13日頃にメールリストでお送りしますので、そちらを入稿の際にご提示ください。

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

アクセス：・白山駅（都営地下鉄三田線）徒歩5分

- ・千石駅（都営地下鉄三田線）徒歩8分
- ・本駒込駅（東京メトロ南北線）徒歩5分
- ・千駄木駅（東京メトロ千代田線）徒歩15分

<https://www.toyo.ac.jp/about/access/hakusan/>

\*西門から直接6号館に入れます。南門、正門/バス停前から入構の場合は井上円了記念館の隣のエスカレーターを降りて地下2階から6号館に入れます



## 2. オンラインでの参加のみなさま

<事前の準備のお願い>

- ◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆Zoom のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめぐり、会員メーリングリストで配信します。
- ◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆待機室を設定している場合、所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。
- ◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。
- ◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

- ◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。
- ◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

<質問・発言について>

- ◆以下のいずれかの方法でお願いいたします。
- ①Zoom の「リアクション」にある「手を挙げる」を表示させる。
- ②Zoom のチャットに、質問内容を書き込む
- ③Zoom のチャットに、質問がある旨を書き込む

<Zoom 終了後の交流時間の取りやめについて>

- ◆オンライン開催では、研究例会の終了後もしばらく Zoom を開放し、報告者・参加者の交流の時間としてきましたが、今回はハイフレックス開催のため片付け等の都合から、Zoom での交流時間は設けないこととさせていただきます。

<当日の Zoom 操作に関する相談窓口>

- ◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先

- ◇メールアドレス matumiya[アット]ews.aichi-pu.jp [アット]を@にしてください。
- ◇当日配布資料の再配布はありません。

<問い合わせ先>

- ◆当日の Zoom 操作に関する以外、研究委員長（清水洋行、hishimizu [アット]chiba-u.jp)までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

## 1. 理事会からの報告

### (1)2022 年度第 6 回理事会報告

2022 年度地域社会学会第 6 回理事会は、2023 年 5 月 12 日（金）の 15 時から 17 時まで、オンラインで開催されました。出席者は以下の通りです。

出席（15 名、敬称略）：浅野慎一、伊藤亜都子、齊藤綾美、清水洋行、高木竜輔、玉野和志、中澤秀雄、船戸修一、前島訓子、松木孝文、松宮朝、町村敬志、丸山真央、望月美希、吉野英岐

理事会では、報告事項 7 件、審議事項 4 件が議論されました。

### 2023 年度研究例会

下記の日程について決定しました。内容、場所については決まり次第、HP でご案内します。

#### ・ 第二回 10 月 14 日 早稲田大学（ハイブリッド開催）

その他の審議事項の詳細については、各委員会報告、総会報告をご覧ください。

### (2)総会報告

2023 年 5 月 13 日（土）18 時 00 分～19 時 00 分まで、駒澤大学にて、地域社会学会総会が開催されました。

総会では、小内純子会員が座長として選出され、会長挨拶、研究委員会報告、編集委員会報告、国際交流委員会報告、地域社会学会賞選考委員会報告、事務局報告が行われました。続いて、2022 年度会計決算についての説明が事務局からあり、監事による監査報告が行われました。2023 年度予算案についても同様に説明が行われ、決算、予算案ともに原案通り承認されました。

総会での審議・承認事項は下記の通りです。

#### ① 地域社会学会の会則改正

地域社会学会の会則 16 条 1 項を以下のように改正することを提案しました。

##### 会則の改正

現行	改正案
第 16 条 役員選出は次の規定によるものとする。 1. 理事は、 <u>総会における</u> 会員の投票によって選出されるものとし、得票数の多い順に上位 10 名とする。最下位に同数者がある場合は抽選による。ただし、会員の投票によって選出された場合でも、通算の理事回数が 10 回を超える場合は、理事を辞退することができる。	第 16 条 役員選出は次の規定によるものとする。 1.理事は、会員の投票によって選出されるものとし、得票数の多い順に上位 10 名とする。最下位に同数者がある場合は抽選による。ただし、会員の投票によって選出された場合でも、通算の理事回数が 10 回を超える場合は、理事を辞退することができる。 以下、略（変更なし）
第 22 条 本会則は 1984 年 4 月 1 日より施行する。(2002 年 5 月 18 日改正、2012 年 5 月 12 日改正、2021 年 5 月 29 日改正、2022 年 5 月 14 日改正)	第 22 条 本会則は 1984 年 4 月 1 日より施行する。(2002 年 5 月 18 日改正、2012 年 5 月 12 日改正、2021 年 5 月 29 日改正、2022 年 5 月 14 日改正、 <u>2023 年 5 月 13 日改正</u> )

⇒改正案が、総会にて承認されました。

## ②託児補助に関する規定について

託児補助金：託児補助金として、お子さま1名につき1大会1万円を上限に支給します。利用者2名以降は50%（5000円/人）の支給とします。補助金の支給は、信憑書類の提示と引き換えに、利用者の口座に大会後振り込みます。支給の対象となる託児利用は、大会開催地周辺でも、利用者の自宅周辺でも広く認めています。

⇒総会にて提案し、承認されました。

最後に、第49回大会について、町村会長より滋賀県立大学にて開催されることが報告され、大会実行委員長となる丸山真央会員（滋賀県立大学）よりご挨拶がありました。2024年5月11～12日を候補に調整することが決まりました。

（松宮 朝）

## 2. 研究委員会からの報告

5月13日～14日に開催された第48回大会は、2019年5月の大会以来の対面形式となり、対面ならではの熱気の中で、緊張感を伴う質疑応答が展開されるとともに新しい交流が生まれる機会となりました。今大会では、5つの自由報告部会にて17報告が行なわれるとともに、この1年間の研究活動を集約するものとして大会シンポジウム「流動化する社会における生活困難と地域社会」が開催されました。

大会後、5月22日に第1回研究委員会、6月16日に第2回の研究委員会をオンラインにて開催しました。2023年度の研究活動のテーマの検討にあたり、今回の大会シンポジウムにて展開された新たな知見と、提示されつつ十分に展開できなかった論点等について検討しました。7月15日（土）の2023年度第1回研究例会では、これら研究委員会での研究委員会における議論もふまえつつ、大会シンポジウムの振り返りを行ないました。報告者は、研究委員で当日の司会者でもありました田中里美会員です。第1回研究例会では、50周年事業によるセッションが企画されていることから、研究報告は1本となります。

なお、研究委員会の出席者は以下の通りです（敬称略）。第1回は、小山弘美、阪口毅、高木竜輔、田中里美、西野淑美、前島訓子、吉村真衣、清水洋行。第2回は、小山弘美、阪口毅、高木竜輔、田中里美、西野淑美、前島訓子、清水洋行。

（清水 洋行）

## 3. 編集委員会からの報告

年報第35集は、会費納入済会員に5月下旬から東信堂から直送され、すでにお手元に届いているかと思えます。会員の皆様のご協力に対し、改めてお礼を申し上げます。まだお受け取りでない会員の皆様につきましては、会費納入が確認された方から順次郵送される予定です。

さて早速ですが、年報第36集（2024年5月発行予定）の原稿を募集します。下記の要領に従って募集いたしますので、奮ってご投稿ください。自由投稿論文については、他のカテゴリーの原稿に比べて締め切りが早くなっております。〈ビューポイント〉〈名著再発見〉〈研究紹介〉のコーナーについても、投稿をお待ちしております。提出は電子ファイルでのみの提出になります。投稿規定・執筆要領・著作権規定を十分ご確認のうえ、ご提出ください。

### <年報第36集原稿募集要領>

1. 自由投稿論文：タイトル・執筆者氏名・本文・図表・注・引用文献を含めて年報掲載時に14ページ以内（1ページは41字×38行で1,558字）に収まるものとします。編集上必要なヘッドスペースを差し引いて、上限字数は21,402字（41字×522行）です。図表等については編集上十分なスペースを確保してください。上限字数が守られていないと編集委員会で判断した場合、受理しないこともあるため、くれぐれもご注意ください。英文要旨は掲載決定後に300語以内で作成します。英文校閲は編集委員会で行う予定です。自由投稿論文の締め切りは2023年9月30日（土）とします。

2. 書評（依頼）／自著・自訳書・編著書紹介（依頼）／研究紹介：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に 2 ページ以内となる 2,870 字（41 字×70 行）に収まるものとします。
3. ビューポイント／名著再発見：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて年報掲載時に 4 ページ以内となる 5,986 字（41 字×146 行）に収まるものとします。 2. および 3. の原稿の締め切りは 2023 年 10 月 31 日（火）とします。
4. 原稿は下記の E メールアドレスに電子ファイルでご提出ください。原稿提出時には、氏名・住所・電話番号・E メールアドレスを明記してください。
5. 「執筆要領」で明文規定している以外のルールは『社会学評論スタイルガイド』に準拠することになります。準拠されていないと編集委員会で判断した場合、受理しないこともあるため、くれぐれもご注意ください。
6. 原稿の提出先 送付先：〒430-8533 浜松市中区中央 2-1-1 静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科 船戸修一 気付 E-mail：s-funa[at]suac.ac.jp ←[at]を@に換えてください。

（船戸 修一）

#### 4. 学会賞選考委員会からの報告

2023 年度の学会賞の選考が始まります。

(1) 地域社会学会賞には、以下の 5 種類の賞があります。

1. 学会賞

①個人著作部門、②共同研究部門

2. 奨励賞〔大学院修士課程修了 15 年以内の者を対象〕

③個人著作部門、④共同研究部門、⑤論文部門

(2) 対象業績は、2022 年 6 月 1 日から 2023 年 5 月 31 日までに刊行された業績です。

(3) 推薦期間は、2023 年 8 月 1 日(火)から 9 月 30 日(土)の間です。

(4) 推薦委員による推薦のほか、会員の自薦・他薦もあります。選考委員長の玉野和志宛てに 2023 年 9 月 30 日(土)必着でお願いします。自薦の場合は、刊行物 1 点も送付してください。

(5) 送付先

E-mail：tamano[アット]k.email.ne.jp(「開封確認要求」付きで)[アット]を@にしてください。

郵送:〒157-0067 世田谷区喜多見 9-24-28 玉野 和志 宛(自宅)

(6) 推薦にあたっては、学会賞規定に沿った基準で選んでいただき、以下を記してください。

①学会賞、奨励賞の区別、②対象研究成果の題目、発行年月日、発行所あるいは掲載雑誌名・巻号、③著者・编者・編著者の氏名、所属、職位・学年次、奨励賞の場合は修士課程修了の有無と修了年月(詳細不明の場合は事務局で調査します)、④推薦者氏名、⑤推薦理由(300 字以内)。

Mail の場合は、word ファイルでお願いします。

(7) 2023 年度の選考委員(8 名)は、玉野和志(重任)、中西典子(重任)、新原道信(重任)、藤井和佐(重任)、横田尚俊(重任)、吉野英岐(重任)、和田清美(新任)、丹邊宣彦(新任)。

委員長は玉野が務めております。

推薦委員(17 名)は、任期中(2 年間)は非公開で、任期の終了後に「会報」で公開しています。

（玉野 和志）

## 5. 社会学系コンソーシアム担当からの報告

4月の会報で新理事会の役割分担として理事から玉野が評議員を務めることを報告しましたが、もうひとりの非理事の評議員について選任が遅れておりましたが、このたび三浦倫平会員にお引き受けいただきましたので、ご報告いたします。よろしくご承知おきください。

(玉野 和志)

## 6. 50周年事業委員会からの報告

地域社会学会 50周年記念事業「若手会員の地域調査・研究ワークショップ」顔合わせ会

7月15日(土)16:40~17:40 例会後に会場およびオンラインのハイブリッドにて開催

5月の大会時に説明会を開催しましたが、地域社会学会 50周年記念事業として、若手会員から参加者を募り、地域において調査研究を実践的に行うワークショップを 2025 年度までの間行います。7月例会後の時間に、ハイブリッドにて、今一度の趣旨説明と参加者顔合わせ会を行います。現在、すでに参加について応募いただいた会員は 20 名弱となっておりますが、この会合後に参加メンバーを確定し、8月以降に第1回研究会を行う予定です。まだ参加表明していない方も、今回の会合にぜひご参加ください。

(小山 弘美・佐藤 洋子)

## 7. 地域社会学会第 48 大会会計報告

地域社会学会第 48 回大会会計報告 (駒澤大学)

### ● 収入の部

	単価	数量	金額
大会参加費 (会員一般)	¥ 2,000	85	¥ 170,000
大会参加費 (会員院生)	¥ 1,000	6	¥ 6,000
大会参加費 (非会員一般)	¥ 2,000	6	¥ 12,000
大会参加費 (非会員院生)	¥ 1,000	1	¥ 1,000
大会補助費			¥ 300,000
合計			¥ 489,000

### ● 支出の部

	単価	数量	金額
大会運営アルバイト謝金	¥ 1,200	156	¥ 230,400
弁当代 (5月13日)	¥ 1,080	12	¥ 12,960
弁当代 (5月14日)	¥ 1,150	22	¥ 25,300
消耗品 (文具類)			¥ 3,062
卓上ベル			¥ 1,835
名札ホルダー			¥ 1,194
飲料品・紙コップ			¥ 4,628
施設使用料			¥ 55,330
地域社会学会に返金			¥ 154,291
合計			¥ 489,000

## 8. 地域社会学会 2022 年度決算報告ならびに 2023 年度予算

2023年度 地域社会学会予算(2023年5月1日～2024年4月30日)

経常会計

(円)

	項目	2022年度予算	2022年度決算	2023年度予算	
	1 前年度繰越金	8,368,668	8,368,668	7,855,416	注1
	2 会費収入	1,780,000	1,263,497	1,988,800	注2
	3 大会会計繰越金	0	82,190	0	
	4 雑収入	0	5	0	
収入合計		10,148,668	9,714,360	9,844,216	
1	研究活動費	230,000	80,000	230,000	
	(会場費)	40,000	0	40,000	
	(事務・通信費)	10,000	0	10,000	
	(謝礼・交通費)	180,000	80,000	180,000	
2	委員会・理事會費	290,000	42,808	290,000	
	(会場費)	10,000	0	10,000	
	(事務・通信費)	40,000	42,808	40,000	
	(交通費)	180,000	0	180,000	
	(人件費)	60,000	0	60,000	
3	事務局費	500,000	567,786	950,000	注3
	(人件費)	50,000	0	50,000	
	(通信費)	180,000	456,318	580,000	
	(消耗品)	60,000	3,326	60,000	
	(交通費)	240,000	98,122	240,000	
	(学術会議関係)	10,000	10,000	10,000	
	(会議費)	10,000	0	10,000	
4	会報発行費	20,000	0	20,000	
	(印刷費)	10,000	0	10,000	
	(発送費)	10,000	0	10,000	
5	年報費	1,080,000	888,370	1,080,000	
	(買い上げ分)	900,000	800,800	900,000	
	(年報発送費)	180,000	67,570	180,000	
6	大会補助費	300,000	300,000	300,000	
	(大会補助金)	200,000	200,000	200,000	
	(大会特別補助)	100,000	100,000	100,000	
7	名簿発行費	0	0	0	
	(調査費)	0	0	0	
	(印刷費)	0	0	0	
8	特別事業費	0	0	2,100,000	
	(50周年記念)	0	0	2,100,000	
	(若手支援等)	0	0	0	
	(ISA関連)	0	0	0	
9	将来計画基金	0	0	0	
	(基金積立金)	0	0	0	
10	予備費	7,728,668	0	4,874,216	
	(予備費)	7,728,668	0	4,874,216	
支出合計		10,148,668	1,858,944	9,844,216	
	残高		7,855,416		
	次期繰越金		7,855,416		

注1 前年度繰越金のうち19,500円は2023年度会費前納分。

注2 2023年度会費収入は2023年度中に納入される事が予想される金額である。

2023年4月末時点での一般会員343名(4名は前年度以前に先払い)、院生会員23名への

会費請求総額2,486,000円(2022年度以前の過年度未払い分を含む)のうち80%が納入されるとの想定。

注3 Smoosy利用料(月33,000円)が1年間ごとの一括払いであるため、2024年度の利用料の一部を併せて反映。

## 9. 事務局からの報告

### (1) 会費納入状況

2023年5月13日時点の会員は375名(一般337名、院生19名、終身19名)で、2021年度の会費納入率は83.3%でした。

今年度までの4年以上滞納者は4名で会員資格喪失となりました。そのほか、3年滞納者は現時点では6名です。



## (2) 会報 232 号、233 号・ジャーナル No. 10 の発行

学会HP上で会報 232 号、233 号とジャーナル No.10 が発行されました。

## (3) 事務局業務の外部委託化について

第 47 回大会総会で、事務局外部委託化の方針が承認されたことを受け、今期事務局にて委託業務内容の精査、業者の選定を行い、第 1 回理事会（2022 年 7 月 10 日）にて説明、アトラス社との契約、SMOOSY の導入を行いました。データの移行やアトラス社との協議を経たのち、2023 年度の会計年度が始まる 5 月 1 日より、システムの運用を開始しました。

新システム導入に伴い、会報発送作業を迅速に進めるために、前年度会費納入者に、発行時点で東信堂より送付することとしました。今年度については、システム導入初年度ということもあり、会報送付時に SMOOSY に関する案内を同封させていただきました。

(松宮 朝)

## 10. 事務局からのお願いとお知らせ

### (1) 2023 年度会費納入のお願い

2023 年度の会費納入をよろしくお願ひします。

納入の状況につはまして、<https://jarcs.sakura.ne.jp/information.html> よりご確認お願ひ申し上げます。

上述の通り、今会計年度からは SMOOSY による納入をお願ひしております。また、過年度分の納入についてもこちらからお願ひしておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます

### (2) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2022 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願ひします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願ひします。

(松宮 朝)

## 11. 会員異動

<新入会員>

- ・堀良平（聖和学園短期大学）

研究テーマ：大学・短大卒の学生がなぜ宮城県で働くのか。学歴社会学、格差社会学、地域社会学などの観点から若者の地域移動について研究。

<退会会員>

牧瀬稔 鈴木克実 森裕亮 木戸調 小新井涼 志田倫子 高田知和 北原麻理奈  
水澤良子

<終身会員>

野邊政雄 鯉坂学 橋本和孝

<逝去>

蓮見音彦 似田貝香門

<会則 6 条資格喪失>

高橋準 檜楨貢 宮城能彦 森幸雄

(以上、2023 年 5 月 12 日理事会で承認)

## 12. 会員の研究成果情報(2022 年～2023 年)

2022 年 [著作]

・中澤秀雄・新藤慶・西城戸誠・玉野和志・大國充彦・久保ともえ『戦後日本の出発と炭鉱労働組合：夕張・笠嶋一日記——1948-1984 年』御茶の水書房、2022 年 10 月

2022 年 [書籍・分担執筆]

・玉野和志「都市とコミュニティ——求められる新たなガバナンス」後藤・安田記念東京都市研

究所編『都市の変容と自治の展望——公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所創立 100 周年記念論文集』公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所，2022 年 3 月

・玉野和志「一九五〇年前後の政治史と炭鉱労働組合」中澤秀雄・新藤慶・西城戸誠・玉野和志  
・大國充彦・久保ともえ『戦後日本の出発と炭鉱労働組合：夕張・笠嶋一日記——1948-1984 年』御茶の水書房，41-53，2022 年 10 月

2022 年 [その他]

・玉野和志「自治会・町内会のこれまでとこれから」『DIO』連合総研レポート，No. 372，15-18，2022 年 1 月

2023 年 [論文]

・岩永真治「『意識されない振る舞い』(das unbewußte Verhalten)、あるいは『死の欲動』について」(書評論文)明治学院大学『社会学・社会福祉学研究』第 161 号，pp.321-339(2023 年 2 月)

・岩永真治「〈振る舞いの社会学〉を素描する—その目標、基本概念、実践形態、研究テーマについて—」同上、第 160 号，pp.1-50(2023 年 2 月)

・片平深雪「家族・地域成員の不在がつくりだした変容——1950 年代後半から 1990 年代における酒屋出稼ぎ送地・丹波篠山市の調査から」『フォーラム現代社会学』22: 46-60，2023 年 4 月

2023 年 [その他]

・岩永真治監修・編集『グローバルに開かれた、多様性に寛容な、品格のある地域づくりを目指して—「よく・生きる」(エウ・ゼーン)とは何かを問い直す—(2022 年度千葉県君津市上総地域まちづくり調査報告書)』明治学院大学社会学部社会学科都市・地域社会学研究室，pp.1-31(2023 年 1 月)

・片平深雪「武田俊輔著『コモンズとしての都市祭礼—長浜曳山祭の都市社会学』(新曜社 2019 年)」『コア・エシックス』18: 193-195，2022 年 3 月

### 1 3. 理事会のご案内

第 1 回理事会

日時 7 月 15 日 (土) 10 : 30~12 : 30

東洋大学白山キャンパス 6 号館 6301 教室+ハイブリッド